

# 健全な男女共同参画社会をめざす会

正しい男女平等とは

[トップ](#) [入会のご案内](#) [会報](#) [活動内容](#) [リンク集](#) [お問い合わせ](#)

[会報一覧に戻る](#)

## なでしこ通信 22号

### なでしこ通信 目次

**第22号** ○ジェンダーフリーの虚構性  
中学校教員 大津寄章三



○講演のポイント 竹田桃子  
○講演の補足 エドワーズ博美  
○久松定成先生ご逝去 事務局

健全な男女共同参画社会をめざす会

H20・5・1

**なでしこ通信 第22号**

# めざす会第6回講演会開催

去る4月6日（日）に愛媛県立美術館講堂にエドワーズ博美氏をお迎えして講演会「独身者は損をしている」を開催致しました。

ふたりの会員の感想をご紹介致します。

## ■ジェンダー・フリーの虚構性

めざす会・幹事 / 中学校教員 大津寄 章三

「めざす会」の6回目となる講演会があり、司会をさせて頂いた。

今回の講師・エドワーズ博美氏のお話をききながら、改めてはっきりと分かったことがある。それは世に言う「ジェンダーフリー」の嫡子たる男女共同参画論というものは、やはり机上の思想でしかない、ということである（類似型を探すとすれば、たとえば「ゆとり教育」や「憲法第9条」、もしくは「社会主義」等がその範疇に入るかもしれない）。

理念、あるいは理屈としてはたぶん間違っていないのである。男女が性別役割に拘束されることなく、既成の概念や通念にとらわれずのびのびと自分の好むライフスタイルを追求する、という価値観に正面切って異議をはさむ人は少なからうし、結婚や専業主婦だけが幸せの最短距離とも断言はできないである

う。DVが許されざる犯罪であることや、女という理由だけで多くの可能性がせばめられてはならないことなども自明の理である。

しかし、である。フェミニズムに敢然と異を唱えるエドワーズ氏の講話の持つ確かさや手応えはいったい何なのであろう。一言で言えば、それは「膨大な事実が生み出す人々の生きた声」のみが持ちうる説得力ではないのだろうか。

一例をあげればこうである。婚姻関係にある両親の下で育った子供と、同棲関係にある男女間に育った子供を比較してみると、明らかに後者には問題行動が多く、彼らは両親が揃っていないながら母子家庭に酷似した行動を示すという。

婚姻が生涯添い遂げようという決意や誓いに裏付けられた行為であるのに対し、同棲はしばしばそのような強い意志を備えてはいない。つまり、婚姻という社会的に認知された制度は「家族は一心同体だ」「自分は家族と運命をともにする」「家族のためなら犠牲もいとわない」という価値観と深く結びついており、そのような安定した制度に立脚した子供は多面的に好影響を受けている、というわけである。

また、両親が離婚した子供は、困難を克服しようとする力が明らかに弱いという。これも、「結婚という人生の浅からぬ決意を維持させられず破綻させてしまった両親」という挫折体験を目の当たりにした子供ならではの悲劇なのであろう。

家族をつくる、ということは決して趣味や気まぐれの領域ではない。多くの人々は血を分けたわが子を抱いて、初めて自己の生命より重い価値があることを悟るが、人生の深みや人



間の成長、ひいては幸福感というものは、実はそのような家族の羽交いの中でしか熟成し発酵しないものではないのか。

フェミニストの唱える「多様な家族論」は、「個としての人間」の決定や選択を何より優先させる思考に立脚している。いわく「ライフスタイルも家族のあり方も、すべて自分が望むように決められるべきである」と。その思考にあっては家族という、場合によっては個の自由にとってしがらみや負担になりかねない要素ははじめから排除（非婚）してもいいし、とりあえず自己が脱しうる距離でかかわって（同棲）もいいし、うまくいかねば中断し（離婚）、選びかえても（再婚）いい。

しかし、人生は取り替えややり直しがいつでもできるジグソーパズルではない。そのような足腰の座らない人生の彷徨から得られる実りは極めて少なく、またその果実は芳醇でもないことを、氏の分析は余すところなく描いている。フェミニストが育児の観点、子供の視点をことさら無視することは以前から気になっていたが、氏は結婚当事者のみならず、子供の立場からも離婚や同棲の不利を説く。

本会はかつて高橋史朗氏、田下昌明氏を講師にお招きしたことがある。前者は教育学・歴史学の立場から、そして後者は小児専門医としての視点から、それぞれ教育や育児のあるべき方向を論じられた。そして今回エドワーズ氏は、米

国という言わばわが国に先行する男女共同参画社会を対象に、広汎かつ長期にわたる調査をふまえたグローバルな視点から育児に切り込まれた。期せずして、こと子育てについては三者が一致した見解に達していることは実に興味深い。

それは、少なくとも子供自身にとっては



- ① 両親が普通の婚姻関係にある
- ② 祖先からの血のつながりが大切にされている
- ③ 乳幼児期に母親のしっかりしたかかわりの下で育つ
- ④ 父性と母性、双方の要素を備えている

という環境と生育歴が何より必要である、ということである。

そして、それはフェミニストが信奉する男女共同参画社会の原理とはそのベクトルの向きが正反対である。

人間という生き物に対する深い洞察と経験智を軽んじ、バラ色の理想に傾斜した多くのイデオロギーが途中で枯れ果てたり、取り返しのつかない傷跡を残した歴史を見るにつけ、今回エドワーズ氏が示された事実の重さを多くの方々、とりわけ政治家や行政関係者にはぜひとも知って頂きたいと思う。



## ■講演のポイント

めざす会・会員 竹田 桃子

### <日本の高校の教科書は異常である>

日本の高校の家庭科の教書は「多様な家族」を薦めているが、これは家族崩壊論だ。アメリカの離婚家庭の子供の自殺率、離婚率、犯罪率は高く、高校中退率は25%（4人に1人）。3人に2人が父と希薄、3人に1人が母と希薄。親との希薄な関係の埋め合わせを友達に求める。その結果、子供の犯罪、自殺、中退等が増加する。

### <子供の家族形態>

1	両親（実）	婚姻	
2	片親（実）	婚姻	
3	両親（実）	同棲	
4	片親（実）	同棲	
5	母子家庭		24－25%
6	父子家庭		5%
7	親以外		5%

アメリカの現状が母子家庭の子供が大体24－25%、父子家庭が5%、親以外の家庭が5%ですので、これを一クラス40人いるクラスにたとえると40人の子供のうち、母子家庭の子供が10人、父子家庭が2人、親以外が2人で、いかに家族が崩

壊しているかがわかると思う。

1と3に差があるか？	→	明らかに差がある。
2と4に差があるか？	→	共に問題行動率が高い
3と4に差があるか？	→	共に問題行動率が高い
母子家庭と同棲家庭に差があるか？	→	母子家庭に酷似している

結論：「1. 両親（実）—婚姻」以外は  
同様に問題行動が多い。

### <婚姻と同棲の違い>

同棲は低学歴、高校中退（4人に1人）、低収入の人が多。相手の為犠牲になろうとしない。

### <逆境を跳ね返す力を持つ子供>

離婚や母子家庭で立派に育つ子供がいる。その子供は「生まれ持った力」「環境による力」がある。逆境を跳ね返す子供に共通していることの第一点は、“1歳まで養育者との間に強い触れあいがあること”、第二点は、“たとえその後、



養育者が不在になっても、誰か一人支援してくれる人がいること。”それは祖母であったり、学校の先生であったり、地域のおじさんであったり、様々だが、そうした支援してくれる大人が一人でも周りにいることで、子供は生きる力を持つことができる。でも、現在の日本にはそうした大人の存在もなくなりつつある。地域が崩壊し、家庭が崩壊したのでは、子供は生きる力をもつどころか、すぐにくじけてしまう。きれやすくなってしまう。

## <育児の外注化>

福田首相は恐るべき政策を打ち出した。「新待機児童ゼロ作戦」（様々な保育サービスを増やす政策）である。仕事か家庭か二者択一しなくてよい、というのだ。アメリカでは母親の81%が母親としての務めが一番重要と考え、97%の母親が母親としての人生に満足している。93%の母親は子育てを他人に任せられないと答えた。母親は出来るなら子育てに専念したいと考えているのに、福田首相は「大切な子育てを放棄して働きに出ろ」と推奨している。

## <男と女のどちらが幸せだと思っているか>

男性の方が自分を幸せだと考えている。女性はストレスが溜まる一方だ。

## <労働力>

子育てを終えた女性にターゲットをなぜ絞らないのか。アメリカでは「能力と年齢は関係ない」のだ。1970年代アメリカの母親が社会進出を積極的に開始。半日保育から全日保育になり、問題行動を起こす子供が2人に1人に増加。乳幼児期の関係がその後一生を左右する。子育ては子供の心を育てる。親子の絆を築くと道德観が強い子供になる。親の愛情を失いたくない一心で親の期待にしっかり応え道德観が強くなる。

### <感性知能>

感性知能とは自分を抑制し、他人の感情、気持ちを読み取る能力。子供、新生児の時から相手の感情に応えなければならない。相手を思いやる気持ち、同情があるから他人の感情、痛みを読み取る能力ができる。反応がないと感情がなくなる。

### <日本の家族制度が一番良い>

日本の「家族」は先祖、子孫まで含めて「家族」である。仏壇、先祖供養は家族の機能。ゆえに我々日本人は過去、現在、未来、将来が見通せる。



### <子育ての基本>

子供が先を見通せない。どうするか。子供に自分の行動の結果を見せて体験させる。先生に叱られるのが一番良い。例えば、寝過ごしたら遅刻させる、万引きしたら、親が子供を連れて一軒一軒廻って土下座して謝る。大人が厳しく注意することも大事だ。

## <男らしさ、女らしさの違いを子供に教えるべきだ>

1歳半～2歳になると自分の性を自覚するのは当然の事。女には妊娠、男には攻撃性等の性差意識の教育を行い、思春期を手助けするべきだ。親の手助けがなければ友人に頼り犯罪が増加する。北京で行われた女性会議の性差（ジェンダー）の定義は通常のものだ。男女共同参画のいう「社会的文化的に形成された」性差というのは嘘八百だ。

## <文部科学省は10代の女の子に妊娠させたいのか？>

血縁関係のない、他人のフェロモンは体の成長を速め、父親のフェロモンは遅らせる。文部省の「多様な家族論」は10代の妊娠を増加させたいのか？アメリカは家族を取り戻す為に必死だ。日本はアメリカの悪いところ（女性の社会進出、ジェンダー学、女性学）を学ばず、良いところを取り入れるべきだ。少子化を解消したいなら、結婚っていいな、夫婦っていいな、と思わせるべきなの

だ。

## < 「女性学」は子供に学ばせるな！！ >

「女性学」はいかに女性が男性に虐げられてきたかに重点。結婚したくなくなる。



# エドワーズ・博美



最後に、今まで家族が果たしてきた大切な役割にもう一つ触れたいと思います。それは、家庭が「男らしさ・女らしさ」を教える場であったのが、最近の「ジェンダー・フリー」という訳の分からない言葉に翻弄されて、すっかりその役割を失いつつある、ということです。

2年前アメリカのシンクタンクのひとつであるアメリカ価値研究所が研究結果の中でこ



う言っています。「子供たちには男らしさ・女らしさをきちんと教えてあげないといけない。」その理由を次のように説明しています。

「子供はすでに1歳半から2歳になると、誰に教えられなくても自分の性を自覚するようになる。それは生物学的に脳やホルモンの働きから当然のことである。特に、思春期を迎える子供たちには性差に根付いた教育が必要になってくる。それは、思春期に入ると、女の子が抱える問題と男の子が抱える問題におのずから差がでてくるからだ。

女の子は妊娠という問題が出てくるし、男の子の場合は攻撃性が強くなってくる。この時期に性差に基づいた社会的意義を見出す手助け、上手に思春期を乗り切る指導を大人がしてあげないといけない。性差を無視したからと言って、性差に根付いた問題がなくなる訳ではない。大人の指導がないと、子供たちは性差の位置づけを友達に求め、その結果、反社会的行動に走ってしまう」

男女共同参画を推奨するフェミニストたちは、自分たちが社会で権力を握ることに一生懸命で、こうした思想が子供たちに及ぼす悪影響は全然頭になくないみたいです。

日本ではちなみに「ジェンダー」という言葉を「社会・文化的に形成された性差」と定義付けていますが、この定義付けは間違っています。1995年に北京で行われた第四回世界女性会議、通称「北京会議」でもジェンダーという言葉が出てきますが、この言葉の定義付けはなされていません。「通常使われる意味と同じである」というのが北京会議の定義です。じゃ、通常はどういう意味に使われるのか、アメリカ人の同僚の先生に聞いてみました。返って来た答えは

「ただ単に性差」です。

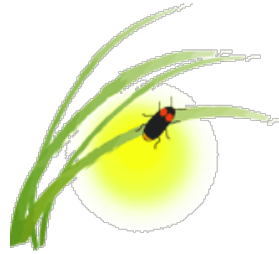
「社会的・文化的に形成された」と定義付けることで、学校や家庭で男らしさ・女らしさを教えるから性差が生まれ、その結果男女平等が達成できない、と言うのが彼女たちの言い分です。しかし、先程のアメリカからの報告でも分かるように、当然存在する性差を否定することの弊害の方が実は子供たちには深刻な問題なのです。

先程、女の子が思春期になると妊娠と言う問題が出てくると言いましたが、最近アメリカで面白い調査結果がでました。「女の子の性的発育は、その子を取り巻く社会環境で遭遇する男性のフェロモンに影響される。それゆえ、義理の父親や母親の同棲相手といった血縁関係にない男性と一緒に住んでいる女の子は生理がはやく始まる。早すぎる性的発育は、時期尚早の性行動、さらには10代の妊娠に繋がる。」

こうした意味でも、簡単に離婚して再婚したり、男友達と同棲することが、どれほど子供たちに悪影響を及ぼすかが伺えます。高校の教科書では、「親族でない者同士が共同生活者として一緒に暮らしている世帯も特別な例とはうけとられなくなってきた」と言っていますが、子供たちにこんなことを教える意義がどこにあるのでしょうか。

今アメリカではここ四半世紀ですっかり崩壊してしまった家族を取り戻し、子供を取り巻く環境を少しでもよくしようと色々な取り組みが行われています。今日紹介した調査報告はそのほんの一部に過ぎません。なんとか子供や家族を

救うべく科学者たちは何年にも渡って血のにじむような研究を続けています。他の過ちから学び、同じ過ちを繰り返さないのが賢者の取るべき道ですが、今の日本はそのアメリカが侵した同じ過ちを、何の疑問も持たず繰り返そうとしています。本当に愚かといしか言いようがありません。



### ■□□事務局からのお知らせ■□□

■4月6日の講演会における小笠原会長の冒頭の挨拶を以下に掲載させていただきます。

「みなさまもご存じかと思いますが、久松定成先生が4月3日に83歳でお亡くなりになりました。只今大林寺で執り行われましたお葬儀に私達めざす会もお別れに参列させていただきました。天皇・皇后両陛下より哀悼のお言葉、また秋篠宮様・紀子様からも哀悼のお言葉を宮内庁より承りましたと参列者にご報告がありました。久松定成先生は靖国神社崇敬奉賛会会長をはじめその他色々にお役をなされて国家のためにご尽力されました。先生のご逝去は愛媛県民と

してほんとうに惜しまれてなりません。私達めざす会も久松先生から国の伝統文化について、また子育てについて、教育について、いろいろとご指導を仰ぎながら進めて参りました。久松先生のご意志を継いで守り続けていくことが久松先生へのご供養だと思われまますので、これから一層、地域社会に貢献していくことをみなさまの前でお誓い申し上げます。」

■百人斬り裁判などでご活躍の徳永信一弁護士のご文章を次号に掲載させていただきます。ご期待下さいませ。

■めざす会のホームページができました！「健全な男女共同参画社会をめざす会」で検索なさってみて下さい。これからどんどん充実させて参りたいと思っております。

■月2回「めざす会」学習会を開催しております。日時（原則は第1&3金曜日）や会場は随時お問い合わせ下さいませ。

■会費の切れる会員には振替用紙と「入会のご案内・ご賛同者名簿」を同封しております。現在の会員数は660名。1,000名をめざしております。この機会にご家族やご友人にもご入会いただけますようお願い致します。新しい方のお名前は通信欄にお書き下さいませ。

## 健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 小笠原ミワ子

〒790-0931松山市西石井1-3-30

電話090-3181-4004 FAX 089-964-3903



メール [t64r59@bma.biglobe.ne.jp](mailto:t64r59@bma.biglobe.ne.jp)

Copyright © 2009, 健全な男女共同参画社会をめざす会, All Rights Reserved.